

児童虐待、老人虐待、DVなどからの生体保護 を研究する臨床法医学

研究代表者 岩瀬 博太郎

共同研究者 (①氏名、②フリガナ、③ローマ字表記、④所属部局名、⑤職名、⑥専門分野)

①猪口 剛、②イノクチ ゴウ、③Inokuchi Go、④法医学教育研究センター、⑤助教、⑥法医学

①本村 あゆみ、②モトムラ アユミ、③Motomura Ayumi、④法医学教育研究センター、⑤助教、⑥法医学



岩瀬 博太郎 Iwase Hirotarō

千葉大学大学院医学研究院教授・附属法医学教育研究センターセンター長

専門分野：法医学

千葉大医学部では、最年少の教授として就任して以来14年目になりますが、平成26年度からは、新設の千葉大法医学教育研究センターのセンター長に着任するかたわら、東京大学法医学教室の教授も兼任しています。長年、わが国の死因究明制度の弱さを指摘し、テレビなどメディアへの登場も多く、法医学ドラマの監修もしています。

— どのような研究内容か？

生きている人を対象とした臨床法医学は、欧州大陸等で普通に見られるものの、わが国では従来ほんの一部でしか行われていませんでした。一方、児童相談所に対する虐待の相談件数は増加の一途をたどり、それとともに損傷を調査する必要性も増しています。以前から、法医学教室に対して児童相談所等から意見を求められていましたが、一昨年の医学研究院附属法医学教育研究センターの発足に伴い、センター内に臨床法医学部門を設立し、生体の調査を本格的に実施することとなりました。これまでの虐待対応は、個々の法医学者、開業する医師や勤務医によって個人的になされてきたことから、データが集積されることなく散逸していましたが、そうした医師をセンター所属とすることによりデータの集積が可能になる可能性もあります。損傷がいかにして作られたか、傷をつけた道具は何か、それはいつできたか、などを当センター

所属の医師（小児科医、法病理医、放射線科医）、歯科医師が実際に診察、或いは提供された写真に基づいて診断し、X線、CT、MRI等の画像記録を放射線専門医が読影することによって、総合的に損傷の評価を行います。更に、その匿名化したデータに基づいて千葉県内における虐待等の原因、傾向等を分析します。

— 何の役に立つ研究なのか？

児童虐待、老人虐待、DV（ドメスティック・バイオレンス）、その他一般の傷害事件等による損傷の法医学的調査を行うことにより、児童相談所、県警察、地区検察等の公的機関に医学的観点から意見を表明するとともに、それら経験の蓄積によって損傷の評価をさらに充実させ、それらデータの蓄積から、疫学的分析等によって、虐待等の再発防止に寄与することを目的としています。

— 今後の計画は？

平成26年に19件、27年に23件の事案に関し、各公的機関へ意見書や鑑定書の提出、或いは口頭での説明を行い、この2年間で臨床法医学の実務を確立させてきました。児童相談所等の各機関も臨床医と異なった視点で損傷の評価がなされる点を理解しつつあり、この分野が県内でさらに進化する事が期待されています。ただ十分なデータの蓄積がなく、また、個人情報に関わる点も多いため、具体的な研究論文といった目に見える成果には結びついていませんが、医学部生あるいは大学院生、更には各公的機関の教育現場で大いに生かされ、



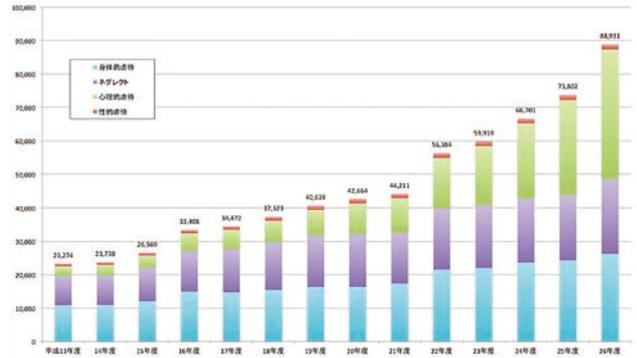


臨床法医模擬診断の様子



臨床法医模擬診断の様子

学生や関係者の関心を惹いています。特に児童虐待の分野では、これらの活動を通じて千葉県下の虐待対策チームによる定期的な勉強会に参加し、事例検討等を行い、相互の協力体制の構築を進めています。今後はさらに実務をとおしてデータの蓄積を行い、分析による成果を出し、具体的な論文や提言に結びつけていく予定です。



児童虐待対応件数の年次推移（「厚生労働省福祉行政報告」より／単位は「件」）

— 関連ウェブサイトへのリンク URL

▶ 千葉大学大学院医学研究院附属法医学教育研究センター

— 成果を客観的に示す論文や新聞等での掲載の紹介

2015年11月16日の日本経済新聞に、「児童虐待、法医学で防げ CTやX線撮影を分析」とのタイトルで、当センターの取り組みが報道されました。これは、共同通信社から配信された記事で全国の地方紙でも報道され話題を呼びました。

— この研究の「強み」は？

法医学は、個々の人の命と健康を守る臨床医学とはちょっと違った医学で、公衆衛生学と同様、社会医学と言われますが、県民や国民という大きな集団を対象に社会全体に貢献できる分野です。また、わが国ではこの臨床法医学に取り組んでいる事例が少ないこと、世界の最新情報を駆使しなければならない点もやりがいを生んでいます。

— 学生や若手研究者へのメッセージ

臨床法医学に少しでも興味のある学生さんや研究者の皆さん、ぜひ一度当センターにお越しください。